

# 概要版 山口市中山間地域づくり指針（案）

## 第1章 指針策定の背景と趣旨（P1）

### 1 中山間地域の重要性（P1）

本市中山間地域は市民に大いなる恵みをもたらしている、樫野川や佐波川、阿武川などの源流域としてその環境を保持し、安心・安全な食料の供給のほか、田園や里山の美しい景観といった都市では得がたいおいに満ちた生活空間や、固有の文化や芸能、歴史や史跡などの多様な地域資源を有しており、本指針では、中山間地域が持つ機能的な有益性や公共的価値を、次世代に引き継ぐべき市民共通の財産として位置づけます。

### 2 指針策定の趣旨（P2）

市町が策定する中山間地域づくり指針は、県が策定する「山口県中山間地域づくりビジョン」と連携し、県、市が一体となって中山間地域づくりに取り組むための計画です。

本市では、平成20年5月、前指針を策定し、中山間地域対策に取り組んできましたが、中山間地域では他の地域を上回るペースで人口減少、高齢化が進行し、多くの課題が顕在化していることから、新たな国の政策や県ビジョンの改定の内容を踏まえ、引き続き、本市中山間地域対策を戦略的に進めるための指針として作成します。

### 3 指針の性格と役割（P3）

「第二次山口市総合計画」を上位計画とし、各部門計画とも整合性を図りつつ、分野横断的な視点から中山間地域づくりを進めるためのガイドラインとなるものです。

### 4 指針の計画期間（P3）

令和2年度から令和9年度までの8年間とします。

### 5 指針の対象地域（P4）

県が中山間地域として定める、徳地地域、阿東地域、仁保地域、小鯖地域、鑄銭司地域、阿知須地域の6地域とします。



## 第2章 中山間地域の現状と課題（P5）

### 1 中山間地域の現状（P5）

- 中山間地域は市域の72.9%を占める一方、人口は市全体の16.3%に限られ、他の地域を上回るペースで人口減少、少子・高齢化が進行しており、集落の小規模化も進んでいます。
- 将来人口推計では、令和42年には中山間地域の人口が半減すると試算されています。
- 本市の農業就業人口は10年間で40.3%減少し、平均年齢は69.7歳となっており、担い手対策が急務となっています。
- 日常生活における移動手段の確保が困難になっています。
- 一部地域では医療機関が減少し医療の確保が困難になっています。

### 2 これまでの取組と中山間地域づくりの課題（P15）

#### （1）これまでの取組（P15）

- 道の駅の改修などにより多くの観光客が訪れる地域となっています。
- 「地域づくり協議会」の立ち上げなど、中山間地域を支える地域コミュニティの強化において大きな進展となりました。
- 地域の総合的な拠点施設として、総合支所、地域交流センター、地域交流センター分館の改修・機能強化を図ってきました。
- 「地域おこし協力隊」の積極的な導入を図ってきました。

#### （2）中山間地域づくりの課題（P16）

##### ① コミュニティ機能の低下

中山間地域においては、集落を中心に地域を維持してきた長い歴史がありますが、これまでのような集落機能を維持することが困難になっており、集落機能を補完し、地域を支える新たな仕組みづくりが必要になっています。

##### ② 生活環境の悪化

地域の商店やスーパーが閉店されたり、高齢により自動車の運転が困難になるなど、買い物や通院などの日常生活に支障をきたしており、過疎・超高齢化の状況に対応した、高齢者も安心して暮らし続けられる、生活環境づくりが求められています。

##### ③ 経済の悪循環

これまで中山間地域の経済を支えてきた農業収入等の減少により、地域内での投資が減少し、地域の経済がさらに縮小する経済の悪循環となっており、地域内での所得の循環を強く意識した取組が必要になっています。また、地域からの大きな所得流出源であるエネルギー部門において、大きな可能性を有する再生可能エネルギー分野のさらなる普及促進が求められています。

##### ④ 急激な人口減少

中山間地域における様々な課題の大きな要因は、急激な人口減少に歯止めがかからないことにありますが、我が国全体が人口減少となる中、中山間地域の人口を維持することは困難な状況です。そのため、地域住民だけでなく、地域の外から地域に想いを寄せ、地域や地域住民と多様な形で関わり、応援・貢献しようとする新しい地域との関わり方である「関係人口」の視点が特に重要になっています。

## 第3章 中山間地域づくりの方向性（P18）

### 1 基本方針（P18）

個性が輝き、交流を育む、安心のふるさとづくり  
～共にいきる豊かな暮らし～

中山間地域の価値は、自然や歴史、文化と共生し、人と人が支え合い生活を営んできた、中山間地域の「共にいきる」暮らしの営みの中で維持・発揮されてきたものであり、「共にいきる」暮らしを再評価し、さらにその価値を高めていきます。

これにより、人口減少、少子・高齢化の状況にあっても、多くの人が行き交い、支え合い、地域が活力に溢れ、あらゆる世代の方が安心して暮らせる中山間地域を実現します。

### 2 目指す中山間地域づくりの姿（暮らし）（P19）

#### ■ 人と人がつながり、支え合いながら、共にいきる

あらゆる世代の人が地域で必要とされ、人と人のつながりを感じながら、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる地域社会を実現します。

#### ■ 自然に寄り添い、豊かな恵みを育みながら、共にいきる

中山間地域の農林業や畜産業など、その価値が適正に評価されるため、職業やライフスタイルとしての農林畜産業の魅力を高めていきます。

#### ■ 多様な価値や歴史・文化にふれあいながら、共にいきる

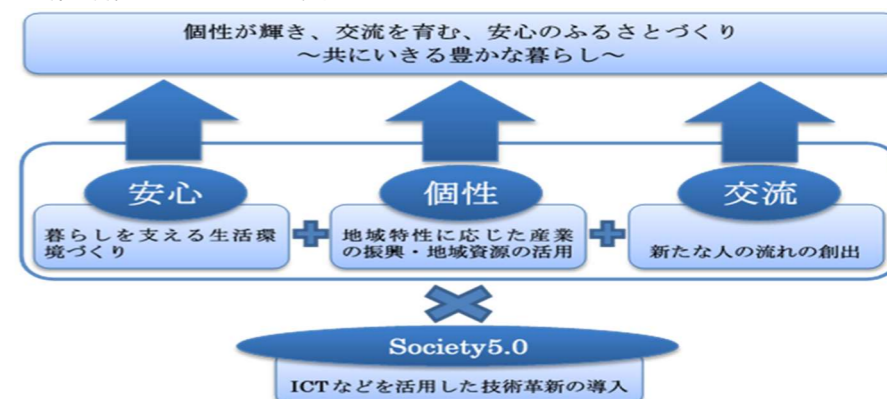
中山間地域に伝わる固有の歴史や文化だけでなく、その価値を高く評価する地域外の人とふれあうことで、中山間地域において多様な価値の交流や新たな価値の創造を実現します。

### 3 中山間地域づくりの方法（P20）

基本方針に即して、中山間地域における「共にいきる」豊かな暮らしを実現するため、**安心、個性、交流**の3つの視点での取組を進めます。

また、ICT（情報通信技術）の進化は目覚ましく、自動運転や農作業の自動化など、これまで不可能であったものが現実になりつつあります。国において**Society5.0**（超スマート社会）の実現として提唱されているこれら技術革新の導入も、人口減少、超高齢化の状況にある中山間地域づくりの大切な視点の一つとします。

#### ■ 指針推進のイメージ図



## （1）暮らしを支える生活環境づくり（P21）

### ① 協働による地域づくり

- 「第二次山口市協働推進プラン」に基づき、地域経営型地域づくりを目指します。
- 地域交流センターの地域づくり支援体制の強化や市職員の地域づくり活動への一層の参画を進めます。
- 地域づくり交付金は多様な地域課題に対応するため、用途制限の緩和等、制度の見直しや充実を図ります。

### ② 地域拠点・生活拠点づくり

- 「第二次山口市総合計画」に示す「重層的コンパクトシティ」の考えのもと、あらゆる地域に住み続けられる、暮らしを守る拠点を構築します。
- 本市の「地域拠点・生活拠点」づくりは、国においては「小さな拠点」、県においては「やまぐち元気生活圏」として推進されており、国、県と一体となって推進します。

### ③ 生活インフラ等の整備

- 老朽化、狭あい化した総合支所、地域交流センター、地域交流センター分館について、地域の総合拠点施設としての整備を進めます。
- 更新時期を迎える水道、道路、消防、救急、教育などの市民生活に必須の施設について、必要な整備を進めます。
- Society5.0の取組を加速させる重要なインフラとして、次世代移动通信システム・5Gの早期のエリア拡大について要望していきます。

### ④ 生活交通の確保

- 利用者の視点にたった公共交通のサービスの向上を図ります。
- コミュニティ交通の導入など、あらゆる移動手段のベストミックスにより、地域の生活交通を確保します。
- 自動車の自動運転などの次世代交通サービスの導入に向けた実証を行っていきます。

### ⑤ 地域医療及び高齢者福祉対策

- へき地診療所の設置や巡回診療により、地域医療の確保を図ります。
- ICTを活用した新たなへき地医療支援方法の検討など関係機関と連携して取り組みます。
- 中山間地域の「お達者な暮らし」の環境を、地域の宝として守っていきます。

## （2）地域特性に応じた産業の振興・地域資源の活用（P25）

### ① 農林業の振興

#### 【農業】

- 中山間地域の広大な農地を守るため、新規就農者の育成、さらなる大規模化・法人化を進めます。
- 少量出荷にも対応した多様な販売機会を構築します。
- 農業に興味を持つ人へのライフスタイルとしての農業の提案など、仕事としての魅力を高めていきます。
- スマート農業の実現に向けた取組を進めます。

#### 【林業】

- 地域を支える産業としての林業の復活と、豊かな森林環境や多面的機能の維持の両面での対策を進めます。
- 阿東地域にある、バイオマスの集積・販売を行う拠点である「北部木材センター」との連携を進めます。
- 徳地地域にある、「森林セラピー基地」のさらなる活用を図ります。

## ② 地域資源の保全と継承

- 中山間地域にある地域資源を保全、継承していくため、地域資源を洗い出し、その価値を深く理解します。
- 歴史文化資源について、指定、未指定にかかわらず幅広く把握し、映像による記録化なども進めていきます。
- 農地について、「中山間地域等直接支払交付金」、「多面的機能支払交付金」の活用を図ります。
- 森林について、「やまぐち森林づくり県民税」を活用した事業を県と連携し進めます。
- 内水面や海洋における水産資源について、清掃活動や種苗の放流など、流域に関わる多様な関係団体と連携して取り組みます。

### ③ 中山間地域における仕事づくり

- 地域内での経済の循環と地域課題の解決を両立する、コミュニティビジネスを推進します。
- 鑄銭司地域において工業団地の整備を進めます。
- 中山間地域での生活を志向する若者等の創業を支援します。
- 「働き方改革」やSociety5.0の取組の進展により、日本中どこにいても仕事ができる環境が構築されつつあります。これらを中山間地域の追い風とし、農業や林業と他の仕事を組み合わせた多業の暮らしなど、中山間地域の新たな仕事・暮らしづくりを進めます。

## （3）新たな人の流れの創出（P28）

### ① UJI ターンへの推進

- 中山間地域の転出超過の状況を抑制し、人口の安定化を図ります。
- 「田園回帰」の高まりを好機として捉え、都市部において積極的なシテイセールスを展開します。
- 中山間地域でのライフスタイルの提案も含めた、きめ細やかな移住・定住相談を行います。
- 空き家を地域の資源として活用し、移住・定住に繋げていきます。

### ② 都市・農山村交流の促進

- 都市と農山村の相互理解や、中山間地域における新たな価値の創造のため、都市・農山村を推進します。
- 都市・農山村交流を地域の重要な地場産業として位置づけ、担い手組織の育成や産業化の取組を進めます。
- 一時的な滞在から再訪問・長期滞在に繋げる、地域滞在型交流を推進します。
- インバウンドにも対応した世界に向けた交流を進めます。

### ③ 外部人材の活用・関係人口の創出

- 「地域おこし協力隊」の導入を地域との連携により進め、隊員の定住につながるようサポートしていきます。
- 高度な専門知識が必要とされるIT分野等において「地域おこし企業人」を導入し、本市のSociety5.0の取組を加速させます。
- 「関係人口」の創出のため、クラウドファンディングやふるさと納税、ふるさとワーキングホリデー、企業との共同研修の場づくりなどの取組を進めます。併せて、さらなる交流人口の拡大の取組を通じて、地域のファンを増やし、地域外の住民の地域への理解を深め、「関係人口」の創出に繋げていきます。

## 第4章 中山間地域づくりの推進及び目標（P31）

### 1 「地域の夢プラン」づくり（P31）

地域づくりは、地域住民自らが地域の将来像を明確にして、その実現に向けて主体的に取り組んでいくことが必要です。

そのため、「地域づくり協議会」と連携し、地域の課題や目標の共有、具体的取組における役割分担などを明確にするため、「地域の夢プラン」づくりを進めます。

また、地域外との交流イベントや中山間地域の価値を積極的に広報し、中山間地域と他の地域の新たなパートナーシップのもと、「オール山口」により、本市中山間地域づくりを進めます。

### 2 目標（P32）

#### （1）重要目標達成指標（KGI）（P32）

基本方針	個性が輝き、交流を育む、安心のふるさとづくり ～共にいきる豊かな暮らし～		
指 標	基準値（H30）	目標値（R9）	推移
中山間地域の人口の転出超過抑制	▲51人／年	▲20人／年	抑制

#### （2）重要業績評価指標（KPI）（P32）

施策の柱	暮らしを支える生活環境づくり		
指 標	基準値（H30）	目標値（R9）	推移
中山間地域において、地域づくり協議会と連携して地域課題に取り組む事業数	23事業／年	50事業／年	増加

施策の柱	地域特性に応じた産業の振興・地域資源の活用		
指 標	基準値（H30）	目標値（R9）	推移
中山間地域の道の駅の売上額	953百万円／年	1,278百万円／年	増加

施策の柱	新たな人の流れの創出		
指 標	基準値（H30）	目標値（R9）	推移
中山間地域の交流人口	187万人／年 (324万人※)	243万人／年	増加

※山口ゆめ花博を含む数値